昭島市崖線緑地保全等検討会報告書

平成 20 年 3 月

昭島市崖線緑地保全等検討会

はじめに

昭島市の南部をほぼ多摩川に沿って東西にはしる立川崖線は、古代の多摩川が南へと流れを変えていく過程で武蔵野台地を削り取ってできた河岸段丘の連なりである。この立川崖線は、JR 青梅線青梅駅付近から始まり調布市と狛江市の市境あたりまで続いており、延長 40km の段丘崖を形成している。段丘崖は下流部ではほとんど高さはないが、昭島市域の立川崖線は 10m程度の高さがあり、比較的急峻である。昭島市には、立川段丘の他に青柳段丘、拝島段丘といくつかの段丘がありその段丘の縁には崖線が存在する。

崖線は多摩地区では古くから「ハケ」と呼ばれており、その斜面地の多くは雑木林で覆われ、崖下（ハケ下）には湧水がみられ、今では市街地の中の親水空間として、また野鳥や小動物の生活空間として市街地に残された貴重な自然地となっている。

本市における立川崖線は多摩川の北側に連なり、それにほぼ沿った形で昭和用水が流れている。この崖線沿いにある諏訪神社（宮沢町二丁目）、拝島公園（拝島町一丁目）、及び龍津寺（拝島町五丁目）付近には比較的、豊富な湧水が見られる。

しかし、近年ではこうした貴重な自然景観でもある崖線樹林地の一部が宅地開発や駐車場に転用されることが目立つことから、崖線の早急な保全が求められている。

こうした状況の下で、本検討会は昭島市域における崖線緑地の保全と活用に向けた取り組みや提言を報告書にまとめた。また、市が公有化を計画している大神町四丁目崖線緑地についての具体的な保全・整備案も合わせて盛り込んだところである。

緑地保全にとって、市民や民間の方々の理解と支援、それに行政による施策の推進が重要となる。本検討会は、昭島市の崖線緑地の保全に向けた提言をこの報告書にまとめた。本報告書が昭島市の緑地保全に役立つことを望んでいる。

平成 20 年 3 月 25 日

昭島市崖線緑地保全等検討会
会長　樋口利彦

目　次

はじめに

第１部　立川崖線緑地の保全、活用のあり方について

１章　立川崖線緑地の現状と課題…… 1ﾍﾟｰｼﾞ

（１）立川崖線緑地の役割…… 1ﾍﾟｰｼﾞ

１)自然環境の保全機能としての役割　２)都市の景観形成としての役割

３)都市の防災機能としての役割　４)レクリエーション機能としての役割

（２）　立川崖線緑地の現状…… 2ﾍﾟｰｼﾞ

１)立川崖線の地勢及び植生　２)立川崖線で見られる生物

３)保存樹林・保存樹木の制度と現状　４)立川崖線緑地の公有化状況

（３）　立川崖線緑地を取り巻く課題…… 10ﾍﾟｰｼﾞ

１)樹林地の減少　２)保存樹林・保存樹木の未指定の存在

３)維持管理と負担　４)湧水の減少

５)崖線緑地の安全性確保　６)ごみ等の不法投棄

７)市民の理解と協力　８)他の自治体等との連携

９)崖線緑地の現状把握の必要性

２章　立川崖線緑地の保全と活用に向けて…… 13ﾍﾟｰｼﾞ

（１)崖線緑地の保全に向けた提案……13ﾍﾟｰｼﾞ

１）公有化による保全　２）法令、条例等による保全

３）総合的な保全策の推進

（２)崖線緑地の啓発と活用に向けた提案…… 16ﾍﾟｰｼﾞ

１）崖線緑地の実態把握　２）市民に向けた啓発活動

３）崖線緑地の活用

（３)公有化崖線緑地の維持管理に向けた提案…… 18ﾍﾟｰｼﾞ

１）崖線緑地の維持管理　２）樹木の維持管理

３）市民協働による維持管理

第２部 大神町四丁目崖線緑地の保全・活用案について

（１)大神町四丁目崖線の現状…… 19ﾍﾟｰｼﾞ

１）位置・地形　２）植生、その他

（２)公有化の必要性…… 21ﾍﾟｰｼﾞ

（３)保全・活用について…… 22ﾍﾟｰｼﾞ

１）基本的な考え方　２）ゾーニング及び基本構想案

資料　ゾーニング図（イメージ)、基本構想図（イメージ）

第１部　立川崖線緑地の保全、活用のあり方について

（１）立川崖線緑地の役割

市域の崖線・立川崖線は、その有している緑により貴重な自然環境を提供しているだけではなく、ロケーションや地形により独特の地域景観を創出するなど、様々な役割を果たしている。

１) 自然環境の保全機能としての役割

〇崖線の緑地は、野鳥や小動物、昆虫などの多様な生物の生息・生育の場として機能している。また、繁殖の場としても重要である。

〇崖線の緑地は、湧水の涵養機能の一部を果たしている。

〇崖線の緑地は、ヒートアイランド現象を緩和する機能を持っている。

２)都市の景観形成としての役割

〇崖線緑地が帯状に連続することから、街と自然が調和した「緑の軸」として、都市景観の一部を形成している。

〇崖線段丘面による高低差や樹林、そして一部に見られる水田は、都市近郊にありながら「原風景」とも呼べる、昔ながらの景観を保っている。

〇崖線緑地は社寺や鎮守の森と隣接することが多く、それらが一体となって歴史的、文化的な地域シンボルとしての役割を果たしている。

３)都市の防災機能としての役割

〇崖線のまとまった緑地は、建物連たんを遮断しており、火災時における延焼の危険性を低下させる役割を果たしている。

〇緑の豊富な崖線緑地は、雨水の流出抑制効果が一定程度、期待できる。

４)レクリエーション機能としての役割

〇崖線緑地の緑や湧水は、市民にやすらぎや潤いを与える貴重な資源であり、憩いの場となっている。

〇崖線の緑地は、植物や生物（野鳥、小動物、昆虫等）等が生息しており、身近な環境学習の場としての役割を果たすことができる。

（２） 立川崖線緑地の現状

本市の崖線は、市域南部を多摩川、昭和用水に沿って東西にほぼ連続して形成され、ケヤキを主体とする落葉広葉樹等で構成される樹林地も概ね連続して残されている。

これらの崖線の樹林地については、平成６年度及び平成７年度の「昭島市崖線の樹林地調査」（平成８年２月・昭島市都市整備部公園緑政課。以下「平成７年度調査」という）時点以降、市民団体の調査（「昭島市の立川崖線（ハケ）・樹林地の現状と保全」平成 18 年３月、昭島環境遺産の会。以下「18 年度調査」という）によれば、12 箇所の樹林地が宅地、駐車場等のへ開発により失われている実態がある。このため、貴重な自然景観でもある崖線の樹林地の早急な保全が求められている。

１）立川崖線の地勢及び植生

本市における崖線の内、まとまった樹林地 25 箇所の現状は、以下のとおりである（「平成７年度調査」を基に作成。「平成 18 年度調査」結果を備考欄に記入）。

表２－１　崖線の樹林地の現状

樹林地番号	主な所在地	面積 (ha)	傾斜角 (度)	湧水	樹　林　の　内　容	備　考 (平成18年度調査)
1	郷地町一丁目	0.20	最大35 平均20	－	○ケヤキ主体（保存樹木多い） ○一部に竹林 ○シラカシも点在	
2	郷地町一丁目	0.12	最大35 平均20	－	○ケヤキ及び植林によるスギ・ヒノキ主体 ○林内にはシュロが多い ○アズマネザサも繁殖	
3	福島町一丁目	0.18	最大40 平均30	－	○ケヤキ、クヌギ、コナラ主体 ○林内はアズマネザサの藪 ○シュロ、ニワトコも目立つ	○一部樹林地消失
4	福島町一丁目	0.27	最大30 平均15	－	○東側はケヤキ、コナラ主体 ○中央はケヤキ主体、シラカシが点在 ○西側は植栽された屋敷林	○一部樹林地消失
5	福島町二丁目	0.15	緩傾斜	◎	○ケヤキ等の低木 ○シラカシ等が存在	
6	福島町二丁目	0.16	最大40 平均30	◎	○シラカシ、ケヤキ主体 ○一部に竹林	○一部樹林地消失
7	福島町二丁目	0.12	最大40 平均30	－	○アカシデ主体 ○ケヤキの大木点在 ○林床はアズマネザサ密生 ○一部にススキ等の草地	○一部樹林地消失
			最大60		○ケヤキ、エノキ主体	

8	中神町二丁目	0.38	平均40	◎	○一部にシラカシ点在	

樹林地番号	主な所在地	面積(ha)	傾斜角(度)	湧水	樹　林　の　概　要	備　考(平成18年度調査)
9	中神町一丁目	0.27	最大50 平均35	―	○東側は竹林に一部ケヤキ ○林床はアオキ、シュロが多く アズマネザサも密生 ○西側はケヤキ主体 ○林床はアズマネザサ密生 ○一部にススキ等の草地	
10	中神町一丁目	0.16	最大60 平均30	◎	○シラカシ主体 ○林床の植生は少ない ○大イチョウ(天然記念物)存在	
11	宮沢町二丁目	0.46	最大40 平均30	◎	○ケヤキ主体 ○一部に竹林	
12	宮沢町二丁目	0.26	最大60 平均20	◎	○ケヤキ主体 ○一部にヒノキ、カヤ、クスの 大木	
13	宮沢町三丁目	0.07	最大50 平均30	―	○ケヤキ、シラカシの大木が点 在	
14	大神町四丁目	0.06	最大50 平均30	―	○ケヤキ、シラカシが点在	
15	大神町四丁目	0.43	最大40 平均30	―	○ケヤキ主体（保存樹木多い） ○林内にアオキ、シュロが繁茂 し、林床が荒廃	○一部樹林地消失
16	田中町二丁目	0.25	最大40 平均30	―	○ケヤキ主体（保存樹木多い） ○シラカシが点在 ○部分的に竹林	○一部樹林地消失
17	田中町二丁目	0.21	最大30 平均30	―	○ケヤキ、エノキ主体 ○一部に竹林	○一部樹林地消失
18	田中町二丁目	0.04	最大15 平均15	―	○ケヤキ主体 ○道路の残地に植栽されたシラ カシ	
19	田中町二丁目	0.06	最大15 平均15	―	○ケヤキ数本（高木密度は疎） ○林床はアズマネザサ繁茂	○一部樹林地消失
20	拝島町一丁目	0.22	最大15 平均15	―	○ケヤキ、エノキ主体 ○一部に竹林	○一部樹林地消失

21	拝島町一丁目	0.10	最大15 平均15	◎	○ケヤキ主体	
22	拝島町一丁目	0.25	最大30 平均15	◎	○ケヤキ、イチョウ主体 ○高木密度は密 ○林床は比較的良好	
23	拝島町五丁目	0.22	最大30 平均15	◎	○ケヤキ、イチョウ主体 ○一部に松等の針葉樹 ○樹林密度は高い	
24	拝島町五丁目	0.44	最大40 平均30	－	○クス、シダジイの大木主体 ○樹林密度は高い	○一部樹林地消失
25	拝島町五丁目	0.25	最大60 平均40	－	○ケヤキ、コナラ主体 ○大木は少ない	

※　**図２－１　樹林地の位置と景観分布**（平成７年度調査報告書より）